

令和3(2021)年「正覚寺報」11月号

お知らせ

コロナワクチン摂取状況は十一月初旬現在
総人口当り二回摂取率が73%になりました。
お蔭様で、日本のコロナ第五波も八月末以来、
減少の一途を辿り、十月末に勤修致しました当
院報恩講も二日間共小春日和に恵まれ、無事
営ませて戴くことができました。御門徒の皆
様、住職共々にホッとする昨今でございます。

記

仏壮お聴聞の会(11月 7日(日)20時~)

正覚寺仏婦例会(11月 20日(土)19時半~)

16日は住職の都合がつかませんので、仏婦例会は20日と
させて戴きます。

【平成三年度正覚寺報恩講】から

本年度当院報恩講にはお客僧「藤澤 信照
先生」をお迎えしました。お参りの皆様がお座
毎に続けてお参りになるお姿をご覧になり先
生から感嘆の御言葉を戴きました。お聴聞の
お姿が尊いからであります。これも毎月のお
聴聞の会の地道な実践の賜物であります。

御法話は、令和三年七月初版が刊行され
たばかりの仏教讃歌「本願力のめぐみゆえ」
の解説とお味わいについてお話戴きました。

「本願力のめぐみゆえ」は、広島龍仙寺の
前坊守様が本堂再建記念として『正信偈』意
訳から選定され、作曲家平田聖子先生に作曲
を依頼され、誕生したばかりの仏教讃歌です。
次のURLからアクセスすることができます。

<https://aki-ryusenji.jp/>

歌詞の一番をご紹介しますと、

「ほとけのみ名に帰してこそ

浄土の聖衆(ひと)のかずに入(い)れ

本願力(ほんがんりき)のめぐみゆえ

南無阿弥陀(なむあみだ)

本願力(ほんがんりき)のめぐみゆえ

ただただ一心の救いかな」です。

先生は、讃歌の「仏のみ名に帰してこそ、浄
土の聖衆のかずに入れ」という歌詞に深い感
銘を受けたとおっしゃいました。作曲家の平
田先生も篤信の念仏者であり同様にお感じに
なっていらっしゃるとのことです。

御文は、『正信偈』の天親章によります。

広由本願力回向 本願力の回向によりて

為度群生彰一心 群生を度せんが為に一心を彰す

帰入功德大宝海 功德大宝海に帰入すれば

必獲入大会衆数 必ず大会衆の数に入ることを獲

十方世界の諸仏如来がお名号の尊さを讃
嘆なさり、そのお声をお聞かせに与ることが
信心を頂戴することであり、衆生はお救いに
与ります。でも、私達はどうしたら諸仏如来の
讃嘆のお声をお聞かせに与るのでしょうか。

その秘密の鍵が「浄土の聖衆のかずに入
れ」だと住職は頂戴するのです。

親鸞聖人のみ教えは、本願力のめぐみゆ
え、如来様から賜る大行を衆生が行じさせて
戴き、今生におりながらお念仏を通して聞こ
えて下さる「阿弥陀にマカセヨ」とのお喚び
声に喚び覚まされて大信が衆生の胸にお宿
り下さり、衆生自身が浄土の聖衆のかずに入
られ、浄土の聖衆とコミュニケーションが
図れるようになるからだと窺われます。

毎月のお聴聞の会にどうぞお参り下さるよ
うご案内申します。合掌。